

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073500284		
法人名	医療法人 恵真会		
事業所名	グループホームめぐみ		
所在地	福岡県糸島市志登567番地1 (電話)092-330-6111		
自己評価作成日	令和5年5月31日	評価結果確定日	令和5年8月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設理念「地域の中でみんな仲良く思いやりのある心豊かな暮らしを目指します」にあるように、地域とのつながりを大切に地域行事への参加や地域住民の方との交流の機会を多く作れるよう取り組んでいきたいと思っています。又、利用者様それぞれにとっての心の豊かさを感じていただける様に、利用者様の思いに寄り添った支援を心がけています。日々の生活の中に楽しみを感じていただける様に季節に応じた外出・イベントの実施や、利用者様の「これを食べたい」という声に応じた調理レクリエーションの実施。利用者様の得意な事への取り組みの実施、利用者様が生活の中で役割を感じていただけるようなアクティビティの実施など、利用者様が自分らしい生活ができ、その中で喜びを感じていただける様取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和5年6月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は同法人の介護老人保健施設と同じ敷地内にあり、周囲は田園が広がっている。玄関にある小さなガラスの観葉植物には、それぞれの利用者が考えた名前が表示されている。それぞれ利用者の特性や日課に合わせて職員のシフト調整を行っている。職員は利用者の強みや課題を分析し、どうすれば楽しい生活を送れるかを考えている。コロナ禍のため地域との関わりを自粛していたが、家族の対面での面会の再開をきっかけに、徐々に地域との繋がりを戻す予定である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、職員室、カーデックスに理念を掲示し、出勤時に目を通して。美味しい食事・楽しいレクリエーションの会、体操・転倒予防体操・歩行訓練など、一日の充実を図るように努めている。	介護記録を記載するファイルに理念を記載したり、申し送り時に復唱したりする等して、理念の共有に取り組んでいる。また、理念の実践に向けて、利用者への丁寧な言葉かけ等、心豊かに生活ができるよう支援に日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の清掃活動に職員が出ている。新型コロナウイルス感染対策前は、保育園に訪問したり慰問を受けていた。又、地域の文化祭に作品を出品したり、見学に行っていた。	コロナ禍のため地域と関わりを自粛していたが、職員が清掃活動に参加する等、できる範囲で交流している。法人の花火大会を開催したり、散歩の際には地域住民と挨拶や会話をする等、地域と交流できるよう努めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られた方から、認知症の方のご相談をいただいた場合は、お話を伺い認知症の人の行動の傾向や、その場に応じた対応の仕方など、アドバイスをさせていただいている。あじさい祭りの時には見学会を開きご相談に応じていた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染対策前は、年6回の運営推進会議で役員の方々に会議の参加をお願いし、意見をいただいていた。現在は感染対策で会議を行っていない為、書類を役員の方々に配布し、意見等をお願いしている。	コロナ禍のため運営推進会議を書面で開催している。書面には、事故ヒヤリハット報告や感染症の罹患状況、避難訓練、行事について記載している。案内文に運営に関する意見を求めている。今後、対面会議の開催に向けて協議する予定である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課の職員に運営推進委員になっていただき、意見等の協力をお願いしている。新型コロナウイルス感染対策で運営推進会議を行えない為、書類を持参し、意見等のご協力をお願いしている。	行政とは入居者の紹介や介護保険関係代行手続き、感染症対策について、日頃から連携を図っている。保健所からは、事業所の構造から見えてくる具体的な感染対策などアドバイスを受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年身体拘束の内部研修会を行い意識向上に努めている。安全の為、玄関の施錠は行っているが、不規則ではあるが、安全確認の上、開錠を行っている。	玄関は内側に電子ロックがあり、暗証番号を入力して開錠できるようになっており、日中、玄関は施錠している。職員が見守り可能な時は開錠するよう努めている。施錠に関しては、家族に書面にて同意を得ている。職員は内部研修を開催し、身体拘束をしないケアについて知識を深めている。	玄関の施錠は身体拘束に該当するので、運営推進会議や身体拘束対策会議において、開錠に向けた検討をお願いしたい。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	感染症対策の為、外部の研修参加が難しい状況ではあったが、めぐみ内で勉強会を行った。マニュアルを基に職員全員が理解し、虐待防止に努めている。また、ユニットの会議の中でも虐待に繋がるような事がないか話し合っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に資料を渡し、ご家族にも説明を行っている。めぐみ内でも毎年勉強会を行っている。	管理者は権利擁護に関する全体像や制度の活用についての理解を深めるため、内部研修会を開催し、報告書を作成している。成年後見制度に関する冊子を玄関に常備しており、問い合わせ対応できるよう努めている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に、契約書に基づいた説明を行っている。利用料金改定時には、新たに書面を配りサインをいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に利用者様やご家族の意見・要望は、可能な限り応えるようにしている。年毎に一回、家族様アンケートを実地し、意見・要望を聞いている。アンケートは集計し、改善会議にて話し合い、反映できるようにしている。アンケート集計結果はご家族に送付している。	職員は利用者のストレングス（強み）や要望を理解しており、手芸などの制作物や地域への買い物支援につなげている。家族から日頃の様子が知りたいとリクエストがあり、2ヶ月に1回、活動写真を家族に郵送する等、意見を運営に反映させている。アンケートを実施し、運営に対する意見や要望を受け付け、結果を公表している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新人職員は、入社3ヵ月後に法人職員と面談を行っている。また年2回程、施設長との面談を行っている。	管理者は会議やカンファレンスで職員の意見を聴くよう努めている。また、職員が意見を言いやすい工夫したり、職員の気づきやアイデアを運営に取り入れるようにしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職位・職責・職務内容に応じた任用要件と賃金体制を整備し、職員がやりがいや、向上心を持って働くことができる様に努めている。労働時間に関しては、変形労働時間制を取り入れ、勤怠管理システムを導入し勤務の適性を図っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	面接希望者は性別、年齢の条件を設けずに全て面接を行っている。採用時も経験年数や学歴に関わらず、仕事に対する姿勢で評価している。	採用選考では、性別や年齢等を理由に採用対象から排除していない。職員が法人は資格取得に関して受講料を全額法人負担する等、働きやすい環境を目指している。行事企画は担当制にしており、おやつ作りや制作、園芸など、職員が得意とする内容を割り当て、生き生きと働けるよう工夫している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎年人権に関する内部研修会を行っており、利用者様の人権を尊重する様に務めている。	職員は高齢者をめぐる虐待、認知症に対する誤った理解や偏見、犯罪被害、消費者被害等の人権問題について内部研修会を実施し、知識を深めている。研修資料と研修記録を残している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職した職員は、勤務内容を把握するまで先輩職員の指導を受けている。法人外の研修は新型コロナ感染対策により受講が難しい為、内部研修の充実を図っている。介護福祉士受験の為、実務者研修を受ける場合は、法人が研修費用の支援をしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着部会、事業所連絡会には管理者が参加している。現在は新型コロナウイルス感染対策で行っていないが、施設見学や認知症啓蒙活動には他職員の参加も促している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時に、ご本人の要望、不安なことなどを聞いているが、まずはご本人の話を傾聴することから始めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族に面談を行い話を傾聴している。定期的な担当者会議を開催し、ご家族の要望をケアプランに反映させている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意見を傾聴し、何を必要とされているのか情報収集に努めている。ユニット会議でその方が必要と思われるサービスを他職員達と話し合っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来ることに目を向け、できることはご本人と一緒にしようとしている。生活歴などを会話の中から引き出し、ご本人が好きなことやできそうなことなどは、声掛けをしながら一緒に行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や来所時には、最近の様子など伝えるようにしている。また、こちらから相談事や気になることなどないか、話しやすいよう声掛けをするようにしている。ご家族にご本人の性格や趣味など聞くようにし、支援に活かしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人に電話などを取り次ぎ、関係が途切れないようにしている。また、ドライブなど出かける際には、ご本人の生まれ育った場所を案内していただいたり、家周辺など案内してもらい、馴染みの場所を思い出してもらえよう支援している。	携帯電話を所持している利用者もおり、自由に外部と連絡ができる。利用者の誕生日に知人が訪問したり、お寺の広報誌を届けてくれる等、馴染みの人と関係を保っている。地域の神社への初詣やコスモス見学等、馴染みの場所とのつながりを継続できるよう努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の座席など、利用者様同士の相性を考慮している。また、利用者様同士が居室内で過ごされている時は、椅子など持っている、ゆっくりと過ごせる環境を提供している。また、職員が間に入りながら利用者様同士の関わり合いが出来るようにしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人が入院されてもご家族と連絡をとりあい現在のご本人の様子を情報共有し、いつでも相談や支援に応じる体制に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話や様子・表情から思いや希望など汲み取るようにしている。また、ご家族に生活歴やどのような性格だったかなど聞き、ご本人の生活スタイルなど継続できるように努めている。また、職員間でも申し送りノートやユニット会議を活用し、入居者の情報共有に努めている。	日頃から利用者の思いや要望を把握するように努めている。意思疎通が難しい利用者は、家族から情報を得たり、表情や言動から利用者の思いを推し測るようにしている。調理レクレーションでは、利用者の食べたい物を聞き、メニューを決める等、思いや希望の把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族から生活歴やこだわりなど聞き取り、生活スタイルの継続ができるようにしている。職員間でも申し送り時や申し送りノートやユニット会議時に情報共有している。馴染みの物などは持ってきていただくようご家族にも伝えている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録は、なるべく細かく記載しご本人の言った言葉や現状を記載し、ご本人の思いの把握に努めている。それを基に職員間で申し送りをし、ご本人の現状・変化など職員間で話し合い、ケアにいかしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り時やカンファレンスにて意見、アイデア、ご本人の気付いたこと、ご家族からの意見、最近の様子など話し合っている。主治医や看護師などに状況説明を行い、指示をいただいたり、意見をいただいている。それを基にケアマネジャーは介護計画を作成している。	ケアマネジャーを中心に、利用者や家族の思い、職員・医師・看護師の意見を反映しながら、個別的な介護計画を作成している。1ヶ月毎に介護計画の評価を行い、6ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。入院や状況変化時は随時介護計画の見直しをしている。介護計画作成時と見直し時は家族に説明をして、同意を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	なるべく、ご本人のその時の様子がわかるよう、状態や言葉などそのまま記録に残すようにしている。それを基に申し送りを行い、情報共有しケアに活かしている。申し送りノートを活用し、統一したケアを行うよう努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に病院受診はご家族にお願いしているが、急遽病院受診が必要になりご家族が付き添えない場合などは、職員が対応している。また、ご家族が医師に状況を説明できないなど、状況によっては、職員も受診に同行したり、車椅子での受診が必要な場合は職員が送迎だけ行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染対策前は、保育園の慰問や地域文化祭の参加等を行い、外部の方との関わりを持てる支援を行っていた。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や往診は、ご本人やご家族の希望のかかりつけ医に診ていただいている。ご本人の状態変化や様子などは受診時や往診時に伝え情報共有を行っている。必要に応じ、職員が同行して状態など伝えることもあり、適切な医療が受けられるように支援している。	利用者のかかりつけ医は、家族の希望する病院を継続し、家族が付き添いを行っている。受診ノートに、利用者の日頃の状況や確認事項を記入し、医師より返事を記載してもらうようにしている。緊急時や家族が受診付き添いが困難な場合は、職員が受診を支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	兼務している看護師が週に1回来所している。その際、報告や相談など行っている。また、利用者様のかかりつけ医の看護師にも、利用者様の変化や状態など情報共有を行い、適切な受診や往診に繋がれるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院した場合は、めぐみのケアマネージャーが病院のソーシャルワーカーと情報交換を行っている。又、ご家族とも連絡を取り合い早期退院が出来る様相談に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご本人、ご家族にめぐみで出来る事を説明し、要介護度によっては特別養護老人ホーム等の申込をすすめている。	重度化や終末期の在り方について、事業所の対応方針や対応できる支援内容を明文化している。契約時に説明し、重度化した場合の意向を確認している。状況変化時は利用者・家族・職員・医師と話し合い、方針の合意と情報の共有をしている。必要時、利用者の状況に対応できる病院や施設を探す支援をしている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会に参加したり、業務を通じて先輩職員が指導を行っている。ヒヤリハットを活用し、事故に繋がらない取り組みを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年災害の内部研修を開催している。年2回の避難訓練は、利用者様も参加していただいている。又、老健の職員と連携して行うこともある。	火災・水害・地震のマニュアルを作成している。避難訓練は年2回実施しており、内1回は夜間想定で行っている。コロナ禍になってからは、避難訓練を実施する際に、地域住民に参加の呼びかけを行っていない。非常用備品は事業所内に準備されている。	非常時には地域住民の協力が不可欠なため、避難訓練を実施する際は地域住民への呼びかけを行ってほしい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関する勉強会を行っている。一人ひとりにあった声掛けを行っている。トイレ誘導時にはドアやカーテンを閉め介助を行っている。又、居室に入る時はノックをし利用者様に許可を得て入っている。時には方言を使用し利用者様がわかりやすい言葉で話している。	トイレの声かけは、利用者の近くでさりげなく行う、職員間で利用者の個人情報を話すときはスタッフルームで話す等、プライバシーに配慮しながら対応している。年1回、個人情報の内部研修を実施したり、日々の関わり方をで気づいたことがあれば話し合う等、職員間で意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを行う際には、ご本人が選択できる声掛けを行っている。意思表示できない人であっても、表情など観察している。ご家族様入居前のことを聞いたりしながら支援に活かしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コミュニケーションをしっかりととり、行動を見守りながら支援している。声掛けなどする際は、ご本人が選択できるよう声掛けに工夫を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が整容や洋服など選べる方はご本人の意思に任せている。困難な方については、ご家族に入居前の好みなど聞いたり、ご本人と一緒に選んだりしながら、その方らしい身だしなみが継続できるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜を取り入れたり、ベランダで育てた野菜を収穫し、食べる喜びを味わっていただいている。食事形態も一人一人に合わせ提供している。準備や片付けなども無理のないように手伝っていただいている。	利用者にエプロンをつけてもらい、盛りつけや食器洗いを職員と一緒にしている。食事のメニューは利用者が食べたい物や旬の食材を取り入れている。調理レクレーションで利用者と職員が一緒におやつをつくったり、気候が良い時期は、ベランダで昼食を食べる等、食事を楽しくする工夫をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立に関しては、食材業者の管理栄養士がメニューを作成し、その後職員がめぐみ向けに見直しを行っている。食事摂取量は毎回記録に残し、食事量の把握に努めている。水分量が少ない方には、ご本人の好みの飲み物などで対応したりしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、見守りや介助・声掛けを行っている。義歯の方は、定期的に義歯洗浄剤を使用している。口腔ケア時や会話時など口腔内の状態など観察を行うようにしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録から把握している。自ら訴えない方に関しては、定期的なトイレ誘導を行い、便器に座って排泄できるよう支援している。	利用者の排泄サインや排泄チェック表を確認しながら、利用者の身体機能に応じて、トイレでの排泄ができるように支援している。排泄の失敗があった時は、さりげなく支援を行っている。排泄用品は、利用者の状況をみながら、パットの種類や交換する時間の見直しを行い、家族にも報告している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便状態を把握し、朝ヨーグルトや牛乳を飲んでもらっている。無理のないよう体操などしてもらっている。トイレ時には、腹部マッサージなどを行っている。便の状態など主治医に伝え、下剤の調整を行ってもらっている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、その日の体調や入りたくないと言われる方に関しては無理に入れるのではなく、ご本人の意向や言葉かけの工夫などしている。シャワーチェアを使用したり、職員2名で対応したりして個々の身体能力に合わせた支援を行うようにしている。	ユニットで週2回の入浴曜日の設定はあるが、希望があれば毎日入浴できるように準備している。皮膚の状況等利用者の状況に応じて入浴に対応している。入浴を望まない利用者には、声かけの工夫や時間において声かけをする等、配慮している。ゆず湯や菖蒲湯等、入浴が楽しくなるように支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の様子に合わせて、昼寝などの時間を設けている。居室にて過ごされている方についてはゆっくりと自分の時間を過ごして頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬状況については、申し送りノートにてしっかり確認できるように徹底している。疑問に思ったことは、主治医や薬剤師に確認する様にしている。処方箋は、個人のカルテに保管し、いつでも確認出来る様にしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の出来る事は、声掛けしながら手伝いをお願いしている。ご家族やご本人にも生活歴や昔からの楽しみ事などは聞きながら、取り入れる様にしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症対策の為、ご本人希望の外出が出来ていないが、天気の良い時や気候が良い時はドライブや敷地内ではあるがお散歩に出かけている。こちら側が行き先を決めるのではなく、なるべく利用者様に行きたい場所を聞き、利用者様の希望に添える様にしている。	散歩は気候が良い時期はほぼ毎日、花壇の花等を見に行っている。月数回、利用者の希望をとりいれながら、ドライブや花見等に出かけている。買い物は、月1回、食材の買い物に職員と一緒にしている。今後はコロナの感染状況をみながら、外出する機会を増やしていくようにしていく予定である。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるが、ご本人で持っておられる方もいる。お金を持つことで安心される方もおられる為、ご家族の同意の上持っただけにしている。以前は持参するお金で老健に飲み物を買いに来られたり、バスハイク時に使用されていた。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様宛の手紙や小包が届いた時は、利用者様に渡している。返事が書ける方については、声掛けや付き添いなど行い、返事を書いていただく事もある。電話もこちらから電話かけてみませんか？と声掛けし、支援している。ご家族にも、気軽にかけただけできるよう、声掛けを行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には、季節を感じていただけるような掲示物やお花など飾っている。掲示物は、なるべく入居者の方と一緒に作るようにしている。ゆっくり過ごして頂けるように食堂にはソファなども置いている。又、食事の際にはゆっくり食べていただけるようにテレビを消し、BGMを流すようにしている。	玄関には花や利用者が作成した作品が飾られている。ユニットのリビングの壁には、季節に応じた、利用者と職員が作成した壁飾りを飾っている。ソファの近くに本棚を置き、ひざ掛けは、利用者が取りやすい場所に置いている。テレビや音楽の音は丁度よく、光の強さはカーテンで調整している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の窓際に長椅子を設置したり、食堂内にソファを設置したり、食堂内に多めに椅子をおいて、好きな場所で過ごして頂けるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から本人様が使用されていた物や馴染みの物など持ってきていただき、本人様が落ち着いて過ごせる環境を作っている。入居者様の中には、お仏壇を持ってこられている方もおられ、毎日朝、お茶を供えられている。家族様とも話しながら居室づくりに取り組んでいる。	利用者の居室のドア横に木製の表札が設置してある。居室内には、使い慣れたテーブル等の家具や仏壇、ウクレレ、テレビ等が持ち込まれたり、壁には家族の写真や作品が飾られる等、利用者らしさが感じられる居心地がよい居室となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリーで手すりも設置している。ベッドも身体機能に合わせ、L字柵を設置したり、夜間のみポータブルトイレを使用して頂いている。入浴の際、身体機能に合わせ、シャワーチェアを使用している。居室やトイレの表札を大きくし、わかりやすい様に工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①毎日ある	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある	<input type="radio"/>	④ほとんどない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、職員室、ユニットに理念を掲示している。朝礼時に理念の唱和を行うことで管理者、職員が理念を共有し利用者様により良いケアの提供ができるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の為、地域の方々との直接の交流はできていない。新型コロナウイルス感染以前は、地域の文化祭への参加や、法人主催で「あじさい祭り」を開催し地域住民の方との交流、近隣の保育園児との交流を行っていた。地域の清掃活動には参加している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られた方から、認知症の方のご相談をいただいた場合は、お話を伺い認知症の人の行動の傾向や、その場に応じた対応の仕方など、アドバイスをさせていただいている。あじさい祭りの時には見学会を開きご相談に応じていた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染対策前は、年6回の運営推進会議で、役員の方々に会議参加をお願いし意見をいただいていた。現在は感染対策で会議を行っていないが、書類を役員の方々に配りし、意見等をお願いしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課の職員に運営推進委員になっていただいている。新型コロナウイルス感染対策で運営推進会議を行えない為、書類を持参し、意見等のご協力をお願いしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行い、職員の身体拘束への理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。特にスピーチロックについて利用者様の行動を妨げるような声掛けをしないように、会議や日々の業務の中で職員同士、声を掛け合っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、職員が虐待について理解を深めている。定期的にユニット会議を行い、日々のケアを振り返り、虐待がないか注意を払い防止に努めている。虐待防止啓発掲示物を事業所内に掲示し虐待防止への職員の意識向上を図っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について家族様に資料をお渡しし周知を図っている。勉強会を通して権利擁護についての学習の機会を設けているが、成年後見制度については理解が乏しい職員が多く、今後は、研修会等を設け、理解を深めていけるよう努めたい。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に、契約書に基づいた説明を行っている。利用料金改定時には、新たに書面を配りサインをいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に利用者様や家族様の意見・要望は、可能な限り応えるようにしている。年に一回、家族様アンケートを実地し、意見・要望を聞いている。アンケートは集計し、改善会議にて話し合い、反映できるようにしている。アンケート集計結果は家族様に送付している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新人職員は、入社3ヵ月後に法人職員と面談を行っている。また年2回程、施設長との面談を行っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職位・職責・職務内容に応じた任用要件と賃金体制を整備し、職員がやりがいや、向上心を持って働くことが出来る様に努めている。労働時間に関しては、変形労働時間制を取り入れ、勤怠管理システムを導入し勤務の適性を図っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	面接希望者は性別、年齢の条件を設けずに全て面接を行っている。採用時も経験年数や学歴に関わらず、仕事に対する姿勢で評価している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎年人権に関する内部研修会を行っており、利用者様の人権を尊重する様に務めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職した職員は、勤務内容を把握するまで先輩職員の指導を受けている。法人外の研修は新型コロナ感染対策により受講が難しい為、内部研修の充実を図っている。介護福祉士受験の為、実務者研修を受ける場合は、法人が研修費用の支援をしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着部会、事業所連絡会には管理者が参加している。現在は新型コロナウィルス感染対策で行っていないが、施設見学や認知症啓蒙活動には他職員の参加も促している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時にご本人とご家族の要望、困りごとを傾聴することから始めている。入居後も、ご本人からの要望等を聞き、少しでも早く安心して過ごして頂けるように声掛け、傾聴を積み重ね信頼関係を築けるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時にご本人とご家族の要望、困りごとを傾聴することから始めている。入居後はご家族の立場での思いや困りごとに耳を傾け、気持ちを受け止め理解し、信頼関係を築けるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の段階でご本人、ご家族との話の中から情報を収集し、まず何が必要か状況を見極め、状況に応じて医療機関や他の専門職の意見も参考にし、支援・サービスの提供を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の個性や生活歴を大切に、ご自身でできる事はして頂き、できないことは職員がサポートする。ご本人に人生の先輩として職員に助言をして頂ける関係を築けている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の変化などはすぐにご家族に状況報告を行い、医療機関受診や必要な物品等はご家族に協力して頂き、ご本人とご家族の関りを大切にしながら、ご家族と職員が共にご本人を支えていく関係を築けるように努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人などに電話など取り次ぎ、関係が途切れないよう支援に努めている。ドライブなど出かける際には、本人様の家周辺など馴染みの場所に出向き、思い出して頂けるよう支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の一人ひとりの性格や、利用者様同士の相性に配慮し、また日々の生活の中での心境の変化の様子をしっかりと観察して食堂の席の配置などを考え、利用者様同士の関係が円滑になるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族からの相談を受けたり、必要に応じて受け入れ先を探すなどの支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしい暮らしができるように、ご本人の思いや意向の把握に努めている。ご本人からの聞き取りができない場合は、ご本人の担当職員が中心になり、行動・言動・表情などご本人の様子から、ご本人の視点に立った支援を提案、ケアマネージャーと情報共有を行いご本人本位に検討している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から生活歴や馴染みの暮らし方など聞き取り、入居後もできるだけ生活環境が変わらず暮らしの継続ができるように努めている。また入居時に馴染みの物などは持って来て頂くようご家族に伝えている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の言った言葉やその時々的心境や状態の変化を細かく介護記録に記載し、ご本人の状態・状況把握に努めている。カンファレンスではご本人のできること、できないことを踏まえたアクティビティを検討し提供に繋げている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いや意向、日々の状況、ご家族からの意見、主治医や看護師などに状況説明、相談を行い、指示や意見を頂き、それを基にケアマネージャーが現状に即した介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容は出来るだけ細かく介護記録に記載し、職員間で情報を共有している。ケアの実践で得た気づきやアイデアは申し送りノートやカンファレンスで情報共有しケアの改善や介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に病院受診はご家族をお願いしているが、急遽病院受診が必要になりご家族が付き添えない場合などは、職員が対応している。また、ご家族が医師に状況を説明できないなど、状況によっては、職員も受診に同行したり、車椅子での受診が必要な場合は職員が送迎だけ行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染対策前は地域での行事や催し物に参加し地域の方との関わりを持てる支援を行っていた。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族の希望を大切に選んでいただいている。特に入居前のかかりつけ医がいる場合は継続して同じ医師に診て頂くことにより、継続して適切な医療を受けられるように支援している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師が週に1回来所している。日々の利用者様の変化について報告・ケアの相談を行っている。また、かかりつけ医の看護師にも、利用者様の変化や状態など情報共有を行い、適切な受診や往診に繋げられるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院された際、病院との情報交換や相談を適宜行い、利用者様、ご家族が安心して治療ができ早期に退院できるように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人、ご家族に当事業所で出来る事を説明し方針について共有している。重度化した場合や終末期のあり方についても早い段階から話し合いを機会を設け、要介護度によっては特別養護老人ホーム等の申込をすすめている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にて利用者様の急変時や事故発生時の対応について、全職員に周知している。新人職員には業務を通じて指導を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策について毎年1回内部研修を行っている。避難訓練は年に2回以上実施し利用者様にも参加して頂いている。また新人職員は優先的に訓練に参加し、通報訓練や水消火器の訓練も行っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活環境やリズムを尊重しその方に合った声掛けを心がけている。またお世話してあげているのではなくお世話させて頂いている精神で利用者様一人ひとりの人格を尊重することに努めている。排泄・入浴の対応は特にプライバシーに配慮し自尊心を傷つけないように心がけ支援している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位の声掛けにならないように、利用者様の自己決定の場面を多くつくれるような声掛けを心掛け、その方らしい過ごし方ができることを大切に支援している。活動への参加もメニューを多く準備しご本人に選択して頂けるように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースを大切に、その方らしい過ごし方ができるように支援している。またその日をどのように過ごされたいかご本人の意向を大事に支援できるように心掛けている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好む洋服をご家族に用意していただいている。外出時や誕生日会などのイベント時にお化粧等おしゃれをして頂けるように支援している。また居室だけでなく、食堂にも鏡を準備し身だしなみを整えられるようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テラスで育てた野菜を収穫して頂いたり、旬の野菜を取り入れたり、季節の行事食を提供して食べる楽しみを感じていただけるように努めている。食事の準備や盛り付けなども無理のない範囲で手伝って頂くように支援している。また食事形態は一人ひとりに合わせ提供している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては、食材業者の管理栄養士がメニューを作成している。食事摂取量のチェックを行い一人ひとりの栄養状態の把握に努めている。また水分量に関しては、水分制限がある方には、水分量の管理徹底を、水分不足の方には好みの飲み物を提供するなど工夫して水分補給を促している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じて、声掛け、見守り、一部介助を行っている。義歯を使用されている方は定期的に洗浄剤を使用している。口腔内の異常の早期発見に努め、異常があれば、歯科受診・往診に繋げている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄状況の記録を基に排泄パターンを把握し、必要な方には定期的にトイレの声掛けをさり気なく行い、排泄を促している。自らの訴えがない方は定期的にトイレ誘導を行い、その方に合った排泄を支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の水分補給は牛乳やヨーグルトなどの乳製品を提供している。水分をしっかり摂り、体操や散歩などの適度な運動を行っている。また腹部マッサージを行うなど、自然排便ができるように個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的に入浴日は決めているが、外出・通院などがある時や、入浴日当日に体調が優れない場合は、前日また後日に入浴して頂けるように支援している。また、入浴の時間帯・順番はできる限りご本人の希望にそえるよう努めている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調や生活リズムに合わせて、日中の休息が必要な方には静養を促している。夜間、良眠して頂けるように、室温調整、調光、寝具の調整など就寝環境を整えるよう努めている。不眠時には、本人様が安心して頂けるように温かい飲み物を提供するなどの対応を取っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のカルテに処方箋を綴じ、いつでも確認できるようにしている。薬の変更がある時は、申し送りノートや介護記録に記載し症状の変化についても、しっかり確認できるように、職員間の情報共有を徹底している。また疑問に思ったことは、主治医や薬剤師に確認する様にしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸が得意な方には、花や野菜のお世話を、料理が得意な方には、調理や盛り付けをして頂くなど役割を持って日々を過ごしていただけるように支援している。また気分転換に散歩やドライブに出かけたり、季節の行事、調理レクなど楽しみを感じて頂けるように努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話の中でご本人の思いや希望を聞き取り外出支援を行っているが、新型コロナウイルス感染対策で、外出先に制限がある為、買い物や観光地などの人の出入りが多い場所への外出はできていない。天気が良い日には、ドライブやお散歩などに出かけている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるが、ご本人で持っておられる方もいる。お金を持つことで安心される方もおられる為、ご家族の同意の上持っただいただいている。以前は持参するお金で老健に飲み物を買いに来られたり、バスハイク時に使用されていた。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望される時はいつでも、電話できるよう支援している。ご家族にも気軽にかけてきて頂けるように声掛けをしている。また携帯電話を所持されている方は、居室で自由に電話をされている。手紙のやり取りに関しては、ご本人が手紙を出したり、届いた手紙に返事を出したり出来るように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示物や花や植物飾り、利用者様に季節を感じて頂けるように配慮している。ホーム内の温度管理や空気の入替えを行い快適に過ごして頂けるように努めている。また廊下の両端に疲れたら腰かけられるようにベンチを設置し、食堂にはソファを設置、足の浮腫み対策にオットマンを準備し、居心地よく過ごして頂けるように工夫している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではテーブルや席の配置は食事時間、レク活動時間、おやつ時間など、その時々で配置を変え利用者様の思い思いに過ごせるように支援している。また読書スペースにはソファを設置し、独りでゆっくり過ごせる環境も整えている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具、馴染みの物、家族の写真、仏壇などをご家族と相談しながら持参して頂きご本人にとって居心地が良い空間で過ごして頂けるように環境を整えています。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリーで手すりも設置している。ベッドは個々の身体機能に合わせて選び、夜間のみポータブルトイレを使用していたいという利用者様にはL字柵をベッドに設置している。入浴は、身体機能に合わせて、シャワーチェアを使用している。居室やトイレの表札を大きくし、わかりやすく掲示している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		